

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	(株) フジテレビジョン
-------	--------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	<p>ワイヤレスブロードバンドは、平成21年7月に総務省「電波政策懇談会」が策定した報告書「電波新産業創出戦略」で、ブロードバンドモバイルに加えて、デジタル放送も含まれています。</p> <p>○ ブロードバンドモバイルの高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブロードバンドワイヤレスのトラフィックは2020年で現在の200倍以上になるとされています。これを収容するために、3.4～3.6GHzが世界無線通信会議（WRC-07）においてIMT（International Mobile Telecommunications）に特定されました。我が国においても、この3.4～3.6GHzが、ブロードバンドモバイルの高度化の中心になると考えられます。 ・ このIMTの早期導入を可能とするため、我々放送事業者は「周波数割当計画」に示されているように、3.4～3.6GHz帯の放送事業用固定局等を別のマイクロ波帯に移行させ、当該帯域の免許返納の計画を進め、ブロードバンドモバイルの高度化に協力しています。 <p>○ デジタル放送の高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2011年7月24日のデジタル完全移行によりVHF、UHF帯合わせて、130MHzの免許を返納する予定です。一方、地上テレビ放送は、日本全国5,000万世帯以上に番組を提供しています。この番組制作で、放送事業者は様々な周波数を、その特性にあわせて使用しており、特に770MHz～806MHzをFPUとして（以下800M帯FPU）見通しのきかない場所での中継等で運用しています。 ・ 一方、800M帯FPUの現在の情報伝送量は、16.2Mbps/chであり、これでは高画質の映像伝送ができません。高精細モードの番組制作で使用できるように、800M帯FPUの伝送容量の増大、及び、誤り訂正能力の向上を行うことが必要です。800M帯FPUを高度化するための

	<p>制度化を早急に進めることを要望いたします。</p>
<p>(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題</p>	<p>○ ワイヤレスブロードバンドであるブロードバンドモバイルを実現するための課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 730～770MHzを携帯電話等の移動通信に割当ての方針が情報通信審議会から平成19年に答申されています。2012年7月以降、速やかに同帯域を移動通信で活用するためには、隣接周波数帯にある各種無線システムとの共存条件などの技術検討を早急に進める必要があると考えます。 ・ 上記検討の結果、携帯電話等の移動通信への730～770MHzの割り当てが困難な場合、また、移動通信向け周波数が足りない場合は、WRC-07でIMTに特定された3.4～3.6GHzを、第4世代だけでなく、広く移動通信に割り当てて検討すべきと考えます。 <p>○ ワイヤレスブロードバンドであるデジタル放送で使用する800帯FPUの高度化を実現するための課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 800帯FPUは、主としてロードレース中継等の移動中継で使用されています。マイクロ波帯FPUや移動用SNGを用いた場合、電柱や陸橋等により、回線が瞬断します。また、マイクロ波帯FPUの受信点や衛星が見通せないビル陰などで発生する長時間の回線途絶は、番組制作で非常に大きな制約となります。この場合に800帯FPUが必要不可欠な伝送手段になります。 ・ また、800帯FPUは、移動中継のほか、同上の理由でマイクロ波帯FPUやSNGが使用できないときに、通常の番組やニュースでも使用されます。 ・ この800帯FPUをより使いやすくするため、平成18年から21年度にかけて、総務省「電波資源拡大のための研究開発」の一環として、その高度化の研究が実施されました。この結果、現状と同じ770MHz～806MHzの36MHz幅で、高精細映像の中継が可能となり、本周波数帯域の利用率向上に大きく寄与することが可能となりました。この成果を早急に制度化する事を要望致します。
<p>(3) 関連する国内外の動向と課題</p>	<p>○ 移動通信サービスに関する国内外の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米国等の携帯電話の周波数配置をベースとして検討

	<p>されている AWF (Asia-Pacific Telecommunity Wireless Forum) での 700MHz 帯の周波数帯は、日本では既に ITS (Intelligent Transportation Systems) の導入が予定されており、また、日本全国で 1 万局以上存在する A 型ラジオマイク、20 万局以上存在する B 型ラジオマイク、さらに、800M 帯 FPU が運用されています。ラジオマイクは放送局でも広く使われており、これらは全て日本国民の安全・安心に深く関わっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本と諸外国で検討されている周波数割当の相違は、高周波部分のみに影響するもので、システム全体からみれば大きな問題ではないと考えます。従って、2020 年に現行の 200 倍以上に膨れ上がると言われているブロードバンドワイヤレスのトラフィックを収容するため、現行の 700M/900M 帯の周波数割当計画を早急に実現することが、日本の通信事業者、メーカー、ひいては一般の利用者の利益につながると考えます。 <p>○ 移動中継等に関する国内外の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸外国では、移動中継用に 2.5GHz 帯などの FPU を使用している例があります。この場合、移動車からヘリコプターに 2.5GHz 帯などで映像を送り、ヘリコプターから受信基地に別の周波数でその映像を送る構成をとるため、移動車一台につき二回線が占有されています。また、悪天候でヘリコプターが使用できない場合、中継不能となります。 ・ 日本で実用化されている 800M 帯 FPU を用いた移動中継方法は、映像伝送のためにヘリコプターを介することなく、800MHz 帯を移動車一台に対して一波しか使用しないため、周波数利用効率の観点で見れば、海外での中継方法と比較して、少なくとも二倍の周波数利用の効率化を達成しており、世界最先端のものです。 ・ また、800MHz 帯が見通し外でも情報を伝送することが可能なことから、弊社では、非常災害時の情報などを視聴者に提供するために構築するネットワーク計画の中に、800M 帯 FPU を必要不可欠な伝送手段として組み入れています。
(4) その他、将来のワイヤレスブ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワイヤレスブロードバンドの新規サービスの導入検

ロードバンドによるサービス
やシステムに関する事項

討の際には、既に運用されているサービスに対して、
影響がないようにすべきであると考えます。